

# 十字架上のキリストの いけにえ (奉献)

「神の御子が地上に来られたことは重要な出来事でしたので、神は幾世紀にもわたってそれを準備なさいました。「最初の契約」に見られる祭儀とささげ物、前表や象徴などを、キリストへ向かうように仕向けられました。さらに神は、イスラエルの相次いで起こった預言者たちの口を通して、キリストを告げられました。そのうえ、異邦人の心のうちにもキリストの到来へのおぼろげな期待を抱かせました。」 (カトリック教会カテキズム 522)

## A. いけにえが人類の歴史において普遍的な現象であります。

1. 「アベルは羊を飼う者となり、カインは土を耕す者となった。時を経て、カインは土の実りを主のもとに献げ物として持って来た。アベルは羊の群れの中から肥えた初子を持って来た。主はアベルとその献げ物に目を留められたが、カインとその献げ物には目を留められなかった。」創4:2-5
2. 「主はアブラムに現れて、言われた。「あなたの子孫にこの土地を与える。」アブラムは、彼に現れた主のために、そこに祭壇を築いた。」創12:7
3. 「世界とその中の万物とを造られた神が、その方です。この神は天地の主ですから、手で造った神殿などにはお住みになりません。また、何か足りないことでもあるかのように、人の手によって仕えてもらう必要もありません。すべての人に命と息と、その他すべてのものを与えてくださるのは、この神だからです。」使 17:24-25

## B. イスラエル人のいけにえの発展

- イスラエルは、近隣諸国から借用した諸要素を取捨選択し、まちがったところは直して精神的なものに高めながら、自分のものに同化してゆく。彼らが民間宗教にみられる人身御供{ごくう}の悪弊(ミカ6:7 士11:30-31 → 王16:34)を拒否しているのは、その一例である
4. 「これらのことの後で、神はアブラハムを試された。神が、「アブラハムよ」と呼びかけ、彼が、「はい」と答えると、神は命じられた。「あなたの息子、あなたの愛する独り子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。わたしが命じる山の一つに登り、彼を焼き尽くす献げ物としてささげなさい。」次の朝早く、アブラハムはろばに鞍を置き、献げ物に用いる薪を割り、二人の若者と息子イサクを連れ、神の命じられた所に向かって行った。三日目になって、アブラハムが目を凝らすと、遠くにその場所が見えたので、アブラハムは若者に言った。「お前たちは、ろばと一緒にここで待っていていなさい。わたしと息子はあそこへ行って、礼拝をして、また戻ってくる。」アブラハムは焼き尽くす献げ物に用いる薪を取って、息子イサクに背負わせ、自分は火と刃物を手に持った。二人は一緒に歩いて行った。イサクは父アブラハムに、「わたしのお父さん」と呼びかけた。彼が、「ここにいる。わたしの子よ」と答えると、イサクは言った。「火と薪はここにありますが、焼き尽くす献げ物にする小羊はどこにいるのですか。」アブラハムは答えた。「わたしの子よ、焼き尽くす献げ物の小羊はきっと神が備えてくださる。」二人は一緒に歩いて行った。神が命じられた場所に着くと、アブラハムはそこに祭壇を築き、薪を並べ、息子イサクを縛って祭壇の薪の上に載せた。そしてアブラハムは、手を伸ばして刃物を取り、息子を屠ろうとした。そのとき、天から主の御使いが、「アブラハム、アブラハム」と呼びかけた。彼が、「はい」と答えると、御使いは言った。「その子に手を下すな。何もしてはならない。あなたが神を畏れる者であることが、今、分かったからだ。あなたは、自分の独り子である息子すら、わたしにささげることを惜しまなかった。」アブラハムは目を凝らして見回した。すると、後ろの木の茂みに一匹の雄羊が角をとられていた。アブラハムは行ってその雄羊を捕まえ、息子の代わりに焼き尽くす献げ物としてささげた。」創22:1-13
  5. 「何をもって、わたしは主の御前に出で いと高き神にぬかずくべきか。焼き尽くす献げ物として当歳の子牛をもって御前に出るべきか。主は喜ばれるだろうか幾千の雄羊、幾万の油の流れを。わが咎を償うために長子を自分の罪のために胎の実をささげるべきか。人よ、何が善であり 主が何を御前に求めておられるかは御前に告げられている。正義を行い、慈しみを愛しへりくだって神と共に歩むこと、これである。」ミカ6:6-8

## C. いけにえの種類

- C1. 全焼のいけにえ (創 8:20 士 6:21 士 11:31 士 13:19)。
- C2. 聖なる食事 (申 12:8 申 14:26)
- C3. 罪を償うためのいけにえ (I サム 3:14 I サム 26:19 II サム 24:15-25 →ホセ 4:8 ミカ 6:7)。

- 交わりのいけにえは、動機によって3種類に分けられる。
  - ◇ 賛美と感謝      ◇ 誓願達成      ◇ 自発的奉獻
- 祭儀は、礼拝、神との親交を求める心情、罪の告白と赦免の願望どの内的感情を外部に表わすものである。
- そのため、いけにえは神との契約式のなかにもはいつてきているのであり(創8:20-22)、このことはとくにシナイ山における契約締結の場合顕著である(出24:5-8)。
- いけにえは、民・家族・個人の生活を聖化するものであり、とくに巡礼や祝祭に際してささげられるとき、この役割を果たしている(1サム1:3 |サム20:6 |王16:15)。

## D. いけにえと心の状態

6. 「お前たちのささげる多くのいけにえが わたしにとって何になるうか、と主は言われる。 雄羊や肥えた獣の脂肪の献げ物に わたしは飽いた。 雄牛、小羊、雄山羊の血をわたしは喜ばない。こうしてわたしの顔を仰ぎ見に来るが 誰がお前たちにこれらのものを求めたか わたしの庭を踏み荒らす者よ。むなしい献げ物を再び持って来るな。 香の煙はわたしの忌み嫌うもの。 新月祭、安息日、祝祭など 災いを伴う集いにわたしは耐ええない。お前たちの新月祭や、定められた日の祭りを わたしは憎んでやまない。 それはわたしにとって、重荷でしかない。それを担うのに疲れ果てた。お前たちが手を広げて祈っても、わたしは目を覆う。 どれほど祈りを繰り返しても、決して聞かない。 お前たちの血にまみれた手を洗って、清くせよ。 悪い行いをわたしの目の前から取り除け。 悪を行うことをやめ善を行うことを学び 裁きをどこまでも実行して 搾取する者を懲らし、孤児の権利を守り やもめの訴えを弁護せよ。」イザ1:11-17
  7. 「わたしはお前たちの祭りを憎み、退ける。 祭りの献げ物の香りも喜ばない。たとえ、焼き尽くす献げ物をわたしにささげても 穀物の献げ物をささげても わたしは受け入れず 肥えた動物の献げ物も顧みない。お前たちの騒がしい歌をわたしから遠ざけよ。 堅琴の音もわたしは聞かない。 正義を洪水のように 恵みの業を大河のように 尽きることなく流れさせよ。」アモ5:21-24
  8. 「しかし、神の求めるいけにえは打ち砕かれた霊。打ち砕かれ悔いる心を／神よ、あなたは侮られません。」詩 51:19
  9. 「わたしが喜ぶのは／愛であっていけにえではなく／神を知ることであって／焼き尽くす献げ物ではない。」ホセ6:6 (マタ 9:13;12,7)
- いけにえは心の準備なしにおこなわれれば、無益な偽善的行為に墮する。
  - よこしまな心でささげられるいけにえは神に嘉されない。

## E. 贖罪（しょくざい）のヤギと主の僕の苦難と死

10. 「くじでアザゼルのものに決まった雄山羊は、生きたまま主の御前に留めておき、贖いの儀式を行い、荒れ野のアザゼルのもとへ追いやるためのものとする。」レビ 16:10
  11. 「彼が担ったのはわたしたちの病／彼が負ったのはわたしたちの痛みであったのに／わたしたちは思っていた／神の手にかかり、打たれたから／彼は苦しんでいるのだ、と。彼が刺し貫かれたのは／わたしたちの背きのためであり／彼が打ち砕かれたのは／わたしたちの咎のためであった。彼の受けた懲らしめによって／わたしたちに平和が与えられ／彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた。」イザ 53:4—5
  12. 「病に苦しむこの人を打ち砕こうと主は望まれ／彼は自らを償いの献げ物とした。彼は、子孫が末永く続くのを見る。主の望まれることは／彼の手によって成し遂げられる。彼は自らの苦しみの実りを見／それを知って満足する。わたしの僕は、多くの人が正しい者とされるために／彼らの罪を自ら負った。」イザ 53:10-11
- 第二イザヤのこの預言は、レビ16:1-34のいけにえの考え方よりもいちじるしい進歩をみせている。というのは、償いの日に民の罪をすべてになったやぎは荒れ野に放たれるだけなのである。このやぎは、按手の儀式は受けてもいけにえの供え物そのものとはみなされていない。言いかえればこの祭儀のなかには、罪びとの身代わりとなって自分をささげるという考えはみられないのである。ところが“ヤーウェの僕”は、みずからすすんで罪びとの身代わりとなり、自分の死を償いのいけにえとしてささげる。欠けるところのないこのささげ物には、神の計画によると多くの人を救う力がある。かくて、このもつとも内面的・精神的ないけにえが、最大の効果をもたらす最高の奉獻となる。

## F. イエス・キリストの受難と十字架の死の自己理解

13. 「だから、あなたが祭壇に供え物を献げようとし、兄弟が自分に反感を持っているのをそこで思い出したなら、その供え物を祭壇の前に置き、まず行って兄弟と仲直りをし、それから帰って来て、供え物を献げなさい。」マタ5:23-24
14. 「そして、『心を尽くし、知恵を尽くし、力を尽くして神を愛し、また隣人を自分のように愛する』ということは、どんな焼き尽くす献げ物やいけにえよりも優れています。」マコ12:33
15. 「『わたしが好むのは、あわれみであって、いけにえではない』とはどういう意味か、学んでください。」マタ 9:13
16. 「イエスは言われた。「イザヤは、あなたたちのような偽善者のことを見事に預言したものだ。彼はこう書いている。『この民は口先ではわたしを敬うが、／その心はわたしから遠く離れている。』」マコ 7:6

### ● ヤーウェの僕

17. 「また、この地上に一つでも、あなたの民イスラエルのような民がいらっしゃいますか。神は進んでこれを贖って御自分の民とし、名をお与えになりました。御自分のために大きな御業を成し遂げ、あなたの民のために御自分の地に恐るべき御業を果たし、御自分のために、エジプトおよび異邦の民とその神々から、この民を贖ってくださいました。」サム下 7:23
18. 「それゆえ、イスラエルの人々に言いなさい。わたしは主である。わたしはエジプトの重労働の下からあなたたちを導き出し、奴隷の身分から救い出す。腕を伸ばし、大いなる審判によってあなたたちを贖う。そして、わたしはあなたたちをわたしの民とし、わたしはあなたたちの神となる。あなたたちはこうして、わたしがあなたたちの神、主であり、あなたたちをエジプトの重労働の下から導き出すことを知る。」出 6:6-7 (イザ 62:11-12)
19. 「イスラエルよ、主を待ち望め。慈しみは主のもとに／豊かな贖いも主のもとに。主は、イスラエルを／すべての罪から贖ってください。」詩 130:7-8
20. 「言っておくが、『その人は犯罪人の一人に数えられた』と書かれていることは、わたしの身に必ず実現する。わたしにかかわることは実現するからである。」ルカ22:37
21. 「だれもわたしから命を奪い取ることはできない。わたしは自分でそれを捨てる(下に置く)。わたしは命を捨てることもでき、それを再び受けることもできる。」ヨハ 10:18
22. 「人の子が、仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのと同じように。」マタ20:28 (マコ10:45)
23. 「ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです。」ロマ 3:24
24. 「わたしたちはこの御子において、その血によって贖われ、罪を赦されました。これは、神の豊かな恵みによるものです。」エフェ 1:7

### ● 過越の小羊のいけにえ

25. 「その小羊は、傷のない一歳の雄でなければならない。用意するのは羊でも山羊でもよい。…その血を取って、小羊を食べる家の入り口の二本の柱と鴨居に塗る。…あなたたちのいる家に塗った血は、あなたたちのしるしとなる。血を見たならば、わたしはあなたたちを過ぎ越す。わたしがエジプトの国を撃つとき、滅ぼす者の災いはあなたたちに及ばない。」出 12:1-13
26. 「その翌日、ヨハネは、自分の方へイエスが来られるのを見て言った。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ。」ヨハ 1:29
27. 「あなたがたも知っているとおり、二日後は過越祭である。人の子は、十字架につけられるために引き渡される。」マタ 26:2
28. 「さて、過越祭の前のことである。イエスは、この世から父のもとへ移る御自分の時が来たことを悟り、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた。」ヨハ 13:1 (ヨハ 11:55-57 ヨハ 12:1)

### ● 自分の血による新しい契約

29. 「モーセは血を取り、民に振りかけて言った。「見よ、これは主がこれらの言葉に基づいてあなたたちと結ばれた契約の血である。」出 24:8
30. 「そして、イエスは言われた。「これは、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。」マコ14:24
31. 「また、杯を取り、感謝の祈りを唱え、彼らに渡して言われた。「皆、この杯から飲みなさい。これは、罪が赦されるように、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。」マタ26:27-28 (ルカ22:20)

- このようにイエスの死が、かつてイスラエルの民をその血で救いだした小羊のいけにえ、その血によって旧契約を締結させた動物のいけにえ、さらにその血によって罪の償いをもたらすヤーウェの僕のいけにえと関連しているこ

とを考えれば、そのいけにえとしての性格がめいりようになってくる。事実、彼の死は、衆人に罪の赦しを施し、新しい決定的契約を結ばせ、新しい神の民を誕生させることにより、購いを成就している。

## G. 愛の業であるキリストのいけにえ(奉獻)

32. 「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。」ヨハ 15:13
  33. 「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」ヨハ3:16
  34. 「わたしたちすべてのために、その御子をさえ惜しまず死に渡された方は、御子と一緒にすべてのものをわたしたちに賜らないはずがありませんか。」ロマ8:32
  35. 「実にキリストは、わたしたちがまだ弱かったころ、定められた時に、不信心な者のために死んでくださった。正しい人のために死ぬ者はほとんどいません。善い人のために命を惜しまない者ならいるかもしれませんが。しかし、わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました。それで今や、わたしたちはキリストの血によって義とされたのですから、キリストによって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。敵であったときさえ、御子の死によって神と和解させていただいたのであれば、和解させていただいた今は、御子の命によって救われるのはなおさらです。それだけでなく、わたしたちの主イエス・キリストによって、わたしたちは神を誇りとしています。今やこのキリストを通して和解させていただいたからです。」ロマ 5:6-11
  36. 「彼らのために、わたしは自分自身をささげます。彼らも、真理によってささげられた者となるためです。また、彼らのためだけでなく、彼らの言葉によってわたしを信じる人々のためにも、お願いします。父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちの内にいるようにしてください。そうすれば、世は、あなたがわたしをお遣わしになったことを、信じるようになります。あなたがくださった栄光を、わたしは彼らに与えました。わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためです。」ヨハ17:19-22
- 使徒たちはこのようにして、かつてのイサクのいけにえとイエスのそれとの類似点を粗描し、この比較によってゴルゴタのいけにえの完全さを浮き彫りにする。つまり父の「愛する子」(マコ1:11 マコ9:7 マコ12:6)であるイエスは自らを罪人の手にわたし、父は人類への愛ゆえに、自分の子さえ惜しまず死にわたしたことが強調される(ロマ8:32 ヨハ3:16)。かくて十字架は、イエスのいけにえが旧約のそれのように“神の意にかなうかおり”(エフェ5:2)であったということ、つまり彼のいけにえの深遠な意義を明らかにしている。それはとりもなおさず、彼のいけにえが純粹の愛の行為であったことに由来する。このときから罪びとなる人類の定めである死は、まったく新しい視野のもとに考察されることになる(ロマ5:6-21)。
  - キリストの奉獻(誕生、生活、受難と死)は、神の(すべての人々への)愛の業でありながら、ナザレのイエスという一人の人間の(神への)愛の業であり、神の愛への完全な応答でありました。
  - 相互の愛(相互の奉獻)の完成は一致です。
  - イエス・キリストの死は新しい命の源となった。この新しい命というのは、人間と神の一致へと導く愛の交わりなのです。

## H.

### キリストのいけにえ(奉獻)による人間の贖い

- 大罪はわたしたちの神との交わりを断ち、その結果永遠のいのちを受けることを不可能にします。この状態は、罪の結果として生じる「永遠の苦しみ(罰)」と呼ばれます。他方、小罪も含めたすべての罪は被造物へのよこしまな愛着を起こさせます。人はこの愛着から、この世であるいは死後、清められなければなりません。死後の清めの状態は煉獄と呼ばれます。この清めによって、人は罪の結果として生じる「有限の苦しみ(罰)」といわれるものから解放されます。この二種類の苦しみ(罰)は、外部から神によって行われる一種の復讐ではなく、罪の本性そのものから生じるものと考えべきです。熱心な愛に基づく回心は罪びとの全面的清めをもたらすことができ、その結果いかなる苦しみ(罰)も存続しなくなります。(カトリック教会カテキズム1472)
- 罪のゆるしと神との交わりの回復は、罪の結果である永遠の苦しみを取り除きます。ただし、有限の苦しみは残ります。キリスト者は、あらゆる種類の苦しみと試練に耐え、死の日が訪れたときには平静に死を迎えて、罪の結果である有限の苦しみを恵みとして受け入れるように努めなければなりません。また、愛の実践、慈悲のわざ、さまざまな償いの実行によって、「古い人」をまったく脱ぎ捨て、「新しい人」を着るよう励む

	いけにえの小羊	イエス キリスト
償い (贖い)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 羊や他の動物を買うために使うお金</li> <li>● 罪から離れる苦しみ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 受肉 (キリストにおいて神ご自身が罪人の真ん中に入られる・百匹の羊のたとえ)</li> <li>● 自力で罪を離れることの出来ない人々との生活に伴う苦しみ</li> </ul>
死	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 無罪で、無力な動物を殺すことは人間の罪の現実(命の主である神に逆らい、神から離れること)を表す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人間であり神であるキリストの死は、人類の罪を表す</li> <li>● 「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」マコ 15:34 という言葉は、罪の最終的な結果を表す。</li> </ul>
奉献	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 屠られた羊の血(命の象徴)を神にささげるとは、神を神として、つまり命の主として認める行為</li> <li>● 神と和解したいという望みを表す行為</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「イエスは大声で叫ばれた。「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。」こう言って息を引き取られた。」ルカ 23:46</li> <li>● 自分の命を神にゆだねる(奉献することによって、イエスは人間の罪をいけにえ(奉献)に変えて、神と和解した。</li> <li>● 受肉によって始まった人間の贖い(罪の奴隷状態からの救い)は、十字架のいけにえ(奉献)によって実現し、昇天で完成された。</li> </ul>